

大阪大学発イノベーションを目指して



巻頭言

米田悦啓*

Running toward the medical innovation from Osaka University

Key Words : Innovation Drug Discovery, Research University,
Basic Research, Social Contribution

先日、大学改革実行プランが文部科学省より発表されました。大学は、各々の大学の独自性を踏まえ、社会に見える形での改革を実行することが求められています。そのプランの中に、「リサーチ・ユニバーシティー」という言葉が出てきます。大阪大学が、その独自性・特徴を生かして、世界有数のリサーチ・ユニバーシティーを目指すとしますと、医学系研究科がその一員としての役割を果たさなければなりません。そのためには、幅広い分野で世界トップレベルの基盤研究を継続的に推進していくことが最も重要であると考えます。そして、その継続的な基盤研究推進のために、基盤研究を革新的なイノベーション創出につなげ、社会に見える形で貢献することが重要であり、これからの大学が果たす責務であると思います。つまり、革新的なイノベーション創出の努力は、必ず次の基盤研究推進の強力なエンジンになると考えます。

このような観点から、医学系研究科では、1つのイノベーションとして「創薬」を考えています。日本発の革新的な医薬品創出を目指した取り組みを開始しており、大阪大学の基盤研究の成果を難病治療薬の開発につなげ、臨床応用を可能にする拠点を学内に整備し、基盤研究成果がシームレスに臨床治験にまで進むことのできる体制を確立することができればと考えています。拠点形成は、医学系研究科だ

けでは進みません。薬学研究科は、文部科学省から支援を受けて、東京大学が持つ公的化合物ライブラリーを活用した創薬等先端研究・教育基盤事業を遂行しています。また、蛋白質研究所を中心にして、創薬シーズ探索の効率化に向けた、蛋白質の結晶構造解析に基づくインシリコスクリーニング技術の開発などが進められておりますし、工学研究科が中心となって、難結晶性蛋白質を標的とした創薬ファクトリーという組織が形成され、工学研究科が持つ「化学力」を創薬に結びつける活動が始まっています。

一方、昨年、厚生労働省の早期・探索的臨床試験拠点整備事業の1つの拠点到医学部附属病院が選ばれました。また、経済産業省が進める「技術の橋渡し」拠点整備事業として、「最先端医療融合イノベーションセンター」建設が認められ、次世代創薬を目指すための研究施設が医学部に新設されます。さらに、医工連携組織である臨床医工学融合教育センターでは、産学連携、医工連携を目指した人材育成が進められてきましたが、昨年、医学系研究科を中心に、博士課程教育リーディングプログラムに採択され、「創薬」を目指す若いリーダーの育成が進みつつあります。

これらを総合的に捉えますと、大阪大学こそ、難病治療薬・新規診断薬開発の基盤研究からその臨床応用までを、間断なく質の高いレベルで行うことができると考えます。医学系研究科がうまくそれらの仲人役となって、大きな目標に向かって一体となって進んでいく土台作りを進めることができればと思っています。「創薬」というキーワードで一致団結し、自由な発想に基づく個々の基盤研究を一層充実させつつ、社会に貢献する大学作りの一翼を担うことができればと考えておりますので、今後ますますのご支援をお願い致します。



*Yoshihiro YONEDA

1955年9月生

大阪大学 医学部 医学科 (1981年)

現在、大阪大学大学院医学系研究科/生命機能研究科 教授、医学系研究科長・医学部長 医学博士 生化学、細胞生物学

TEL : 06-6879-4606

FAX : 06-6879-4609

E-mail : yyoneda@anat3.med.osaka-u.ac.jp